特集

脳梗塞を予防する心臓手術

■心臓血管外科医師　畝　大

左心耳閉鎖術について

心房細動に関わる心臓外科領域の手術を紹介させていただきます。心房細動による大きな問題の一つである脳梗塞の起こる機序を少しお話しします。心臓は4つの部屋（左右心房、左右心室）からできており、さらに左心房と右心房には左心耳と右心耳という袋状の出っ張り部分があります。心房細動時には左右の心房の壁が不規則な動きをするため心房内の血液がよどみます。特に左心耳内の血流は遅くなり、よどみは強く血液が固まり始めます。血液が固まった塊は血栓と呼ばれ、袋状の左心耳内に特に形成されやすいです。血栓がいったんできてしまうと何かの拍子に左心耳から出て全身に流れることがあり流れ先の血管を詰まらせて問題を起こします。運悪く脳に流れた場合には脳梗塞となります。このため心房細動と診断された場合には血がサラサラになる薬（抗凝固薬）を飲んでいただき血栓をできにくくしてもらっています。

心臓外科では心房細動のある患者さんの心臓手術（弁膜症や冠動脈バイパス）を行う際には、すぐ目の前に見える左心耳を閉鎖して将来の脳梗塞リスクを取り除いています。3〜10分程度の追加時間で行えますので小さな負担で将来の脳梗塞リスクを大きく下げることができます。

最近では、ほかの心臓手術を行わない場合でも、左胸の小さな傷から単独で左心耳閉鎖術を行うことができるようになり普及してきています。（この場合は1時間前後の手術時間が必要です。）他に心臓病が無ければ左心耳閉鎖術後には血がサラサラになる薬を中止することが可能なため、組織や血管がもろく出血する恐れのある高齢者など抗凝固薬を中止したい患者さんでは特にお勧めです。興味のある患者さんは是非ご相談ください。